

平成23年度 事務事業評価シート

		課名	企画課	企画係	No	1
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	14	意欲のある人づくり	3	高等学校・高等教育機関との連携・活用	2	高等教育機関との連携・活用
事業名	山口東京理科大学連携事務					
予算費目	款		項		目	
	細目		細々目		会計種別	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
山口東京理科大学では、時代をリードする人材の養成、科学技術をもって地方の活性化と教育の充実を図っている。社会が多様化する中で、個性輝く活力ある社会を形成するために、人的・知的資源を活用することが求められている。 市と大学の人的・知的資源を活用した連携協力事業に関する事項を協議するために、平成18年6月7日に連携協議会を設置している。		山口東京理科大学と協議する場を持ち、高等教育機関と地域の連携を図るとともに地域の生涯学習を促進など事業展開を図る。		市と大学の人的・知的資源を活用した連携協力事業に関する事項を協議するために、平成18年6月7日に連携協議会を設置した。この協議会で連携協力事業の企画立案し事業を行う。 ・小中学校のほんもの科学体験講座 ・かがく博覧会の開催 ・市民への生涯学習支援事業 ・図書館機能の共有化事業	
活動指標			成果指標		成果指標の到達度(B/A)
協議会開催回数			計画した事業の実行数		
目標値(単位)		実績値(単位)		75	
2 (回)		2 (回)		24 (事業)	
				18 (事業)	
%					

2 DO

歳出			予算現額(円)	決算額(円)	歳入			予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳					財(源内訳)	国庫支出金	()		
						県支出金	()		
						地方債	()		
						その他	()		
					一般財源	()			
合計			0	0	合計			0	0
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)						
		0.1	604,100						

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題		改善策	
・市と大学の新たな事業展開を模索する必要がある。 ・市が行う事業において、大学と連携によって効果が上がるものがあるれば、事業計画の段階から提案できるようにする。		・大学と協議を進めながら、有益に実施できる新事業について探求する。	
事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A 計画どおり事業を進めることが適当		A 計画どおり事業を進めることが適当	
その他	ゼロ予算事業		

平成23年度 事務事業評価シート

課名		教育総務課		政策係		No	1		
施策体系	大項目(政策)		中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	14	意欲のある人づくり	3	高等学校・高等教育機関との連携・活用	2	高等教育機関との連携・活用			
事業名	小・中学生ほんものの科学体験事業(山口東京理科大学連携事業)								
予算費目	款	10	教育費	項	1	教育総務費	目	3	指導研究費
	細目	1	指導研究費	細々目	17	本物科学体験プロジェクト事業	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
子どもたちの理科離れが指摘される中、平成18年2月に結んだ市と山口東京理科大学との包括的連携協定に基づく初等教育における理科支援事業の一つとして、平成19年度から毎年実施している。		小学校5年生から中学校3年生までを対象に、学校で体験することのできない実験を行って科学の楽しさや驚き、感動を体感させ、科学に対する学習意欲を高める。		大学から示される「ほんものの科学体験講座」のメニューを市内の小・中学校に示し、受講を希望する学校を募って取りまとめ、講座開催日に準備等の支援を行う。	
活動指標			成果指標		
用意された講座の数			講座の実施回数		
目標値(単位)		実績値(単位)		成果指標の到達度(B/A)	
7(講座)		7(講座)		75%	
目標値A(単位)		実績値B(単位)			
9(校)		7(校)			

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	報償費	81,000	58,500	財源(内訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
合計	81,000	58,500	一般財源		()	81,000	58,500
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)	合計			
		0.15	906,150	81,000 58,500			

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	B 有効性が認められる	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題		改善策	
学級数の多い学校では公平な受講機会の確保に苦慮して、受講に二の足を踏む傾向がある。講座は7つ用意されたが、受講希望のあった講座は3つに止まった。		一度に多くの児童生徒を収容できる屋内運動場での実施の可否など、詳しい実施方法を学校へ伝えるとともに、市教研理科主任会の会合で受講を薦め、受入側の学校の工夫を促す。また、大学側にも小・中学校の教科書を提供し、学校からさらに好まれる講座を提供していただけるよう要望する。	
事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A 計画どおり事業を進めることが適当		A 計画どおり事業を進めることが適当	
その他			

平成23年度 事務事業評価シート

課名		教育総務課		政策係		No	2		
施策体系	大項目(政策)			中項目(施策)		小項目(基本事業)			
	14	意欲のある人づくり		3	高等学校・高等教育機関との連携・活用		2 高等教育機関との連携・活用		
事業名	山陽小野田市「かがく博覧会」								
予算費目	款	10	教育費	項	1	教育総務費	目	3	指導研究費
	細目	1	指導研究費	細々目	17	本物科学体験プロジェクト事業	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	臨時		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順			
市と山口東京理科大学との包括的連携協定が結ばれて4年が経過し、連携協力事業の一層の充実が望まれていた折、対象をすべての児童生徒に広げ、科学を幅広く取り扱う事業として、平成22年度から毎年実施している。		子どもたちに、より専門的な実験や体験等を通じて、科学を学ぶ楽しさや驚き、感動を味わえる機会を提供し、科学に対する興味や関心を高め、将来の人材育成に繋げる。		おのだサンパークを会場に、2日間にわたって、夏休みに市内の小・中学生が作った科学作品を展示し、優秀な科学作品を表彰するほか、市内の高校と山口東京理科大学が見て触って楽しめる実験ブースなどを設ける。			
活動指標			成果指標		成果指標の到達度(B/A)		
出展ブースの数			来場者数				
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)		実績値B(単位)	
15(箇所)		17(箇所)		2,000(人)		2,500(人)	
107 %							

2 DO

歳出		予算現額(円)	決算額(円)	歳入		予算現額(円)	決算額(円)
支出内訳	負担金、補助金及び交付金	500,000	490,275	財(源割内訳)	国庫支出金 ()		
					県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 ()		
					一般財源 ()	500,000	490,275
合計		500,000	490,275	合計		500,000	490,275
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.5	3,020,500				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
来場者が殺到する時間帯の安全確保や展示作品の損傷防止に十分な配慮が必要である。	危険を伴う実験には安全メガネを用意し、展示作品の監視を理科主任の先生方に交替で行ってもらい、来場者に注意を呼びかける文書を会場に貼る。

事業の方向性(一次評価)		事業の方向性(二次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当	A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--